

がん検診有所見者の受療行動を促進させる 健康保険組合のためのDx

永田智久 tomohisa@med.uoeh-u.ac.jp

開発における問題点

健康保険組合が実施するがん検診において、一次検診で要受診となった人が精密検査を受診したかどうかを把握できていないことが大半である。市町村のデータによると、約2割の有所見者が精密検査を受診していない可能性がある。

手法・ツールの適用による解決

がん検診の要受診者が受診結果を登録する仕組み(LINEを利用)により、健康保険組合が受診結果を把握することが可能となり、要受診者に対して精密検査の受診勧奨を行うことができる。また、がん検診のPDCAを回すことができる。

がん検診受診前

いつ受診するかを登録⇒受診前にリマインドが届く

がん検診結果の登録

受診結果を登録⇒精密検査が受診できる医療機関をリスト化されるため、予約が簡便

精密検査受診前

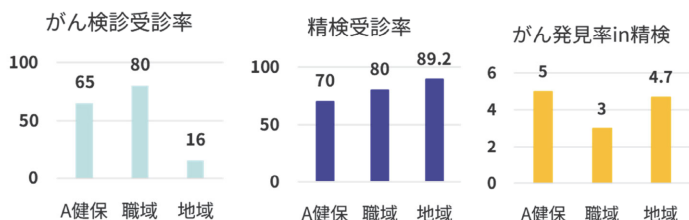
精密検査前にリマインドが届く(検査内容を知り、不安が軽減される)

精密検査結果の登録

すべての登録が終わると、ポイントが付与される

健康保険組合のメリット

- ・精密検査の未受診者リストを把握できる
⇒受診勧奨の介入が可能に！
- ・がん検診の状況が把握できる
⇒保健指導のPDCAが回せる！



課題と解決策

- ・本人がしっかりと登録するか？
⇒普及率の高いLINEによる簡便なツール
(20-59歳のLINE利用率はいずれも90%超)
⇒ツールを使用すれば健康保険組合の手続きが簡略化されるインセンティブ設計
- ・個人情報保護は問題ないか？
⇒要配慮個人情報は国内サーバーに保存
⇒本人同意を取得するプロセスを確保する